

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

後藤滋樹
goto@goto.info.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

第40回「ドメインネーム騒動」

【商標とドメイン名】

インターネットの商用利用が進んできた。新聞広告やTVコマースでのURL表記、ウェブ広告も一般的になってきた。電子メールで注文や問合せを受け付ける会社もある。

そこで問題となってきたのが、実世界で確立した商標権と、インターネットの世界におけるドメイン名との関係である。

自分の会社のドメイン名を取得しようと思ったら、すでに他人に割当て済みであったという事件が頻発している。商標とドメイン名とは全く独立に考えるべきか、商標の所有者にはドメイン名が優先的に与えられるのか。いろいろな考え方があり、単純には解決できない。

【古き良き時代】

今となっては信じられないような表記が、ほんの少し前の常識であった。米国でドメイン名に切り替えたのは1984年頃で、当時筆者はスタンフォード大学に滞在していた。インターネットの起源であるARPAネットではマシン名の後に「.arpa」をつける。つまり「マシン名.arpa」がネットワークのマシン名であった。これを「マシン名.stanford.edu」に切り替えたのだが、移行は必ずしもスムーズではなかった。切り替えた直後に何か不具合が生じたらしく、昔の表記に一旦戻ったことを記憶している。

その頃でもマシン名が長くなるのは不便だと感じた人が多かったが、「マシン名.arpa」では名前が足りなくなるのは目に見えていた。

日本でも、私がNTT研究所に勤務していた時代のマシンは最初の頃は「ntt-20.junet」という名前と呼ばれていた。この「junet」という時代を知っている世代が、日本のインターネットではold boysということになる。

【独占はダメよ】

さて、インターネットが実世界で普及するにつれて、米国を中心に使われている「.com」においてドメイン名をめぐる争いが発生した。さらにドメイン名の管理が独占的に行われていることを非難する動きが出てきた。

いろいろな議論があったが、1つの結論が「gTLD-MoU」というものである（<http://www.gtld-mou.org/>参照）。この文書には反対の人もあるし、熟読してみても未確定の要素が多くてよく分からないという感想を抱く人も多い。しかしまとまった対策もないので、ほかに選択肢がないという見方が多かったと思う。これは昨

年、つまり1997年のことである。

ところが、最近になって米国政府が「グリーンペーパー」なるものを出してきた。新聞などで概要が報道されたが、興味のある諸氏は原文を参照してほしい。

<http://www.ntia.doc.gov/ntiahome/domainname/domainname130.htm>

この米国政府のペーパーは、先のgTLD-MoUとは酷似しているものの、肝心な点で差異がある。私もクリントン大統領の補佐官 Ira Magaziner 氏の話を通じて聞く機会があったが、情報が増えるともますます混迷の度合いが深まるような趣がある。

【ntt.jpの由来】

昔話のついでに、少し前まで残っていた「ntt.jp」というドメイン名について言い訳をしておこう。

現在の電子メールの配送ルートは、インターネットの経路制御に従っている。しかし以前のjunetの時代のメールの転送はもっと複雑であった。DNS（ネームサーバー）を引くのではなく、sendmailというプログラムの中で多層に記述されたルールを参照して経路が決まる。

特にヨーロッパから日本に入ってくる経路が問題であった。具体的には「ntt.co.jp」と書くと日本の他の「*.co.jp」と同様に扱われてKDD研究所が運用していたinetCLUBのリンクを通り、「ntt.jp」と書けばヨーロッパから米国内を抜けてNTT研究所の日米専用回線を通るように設定されていた。

その後技術的な背景が大幅に変化した。今やドメイン名はIPアドレスに対応し、それに基づいて経路が決まる。日本の「*.co.jp」が一まとめに扱われるような単純な制御ではない。そこで「ntt.jp」から「ntt.co.jp」に直したのであるが、これはNTT側に多大な作業を生じさせることとなった。

【いよいよディレクトリが必要だ】

現在のドメイン名に関する議論に対して、冷静に技術的な側面から見ている人は現在のドメイン名に固執するのを避けるようにアドバイスしている。ネットワーク上で相手を適切に探すことのできる電話帳のような「ディレクトリ」が整備されれば、問題は大幅に軽減されるという訳である。これは現在のインターネットに欠けている機能である。

ようやく最近になってLDAPなどの実用指向のディレクトリが登場してきている。ドメインを巡る混乱が解決すると同時に、便利なディレクトリがいよいよ普及することを期待したい。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp